

3kg級

常連の強さに舌を巻く！



技術的に高みでの戦いの続く3kg級は、大方の予想通り、今大会も常連の強さが目を引いた。自立型では、ロボット相撲愛好会の田村友幸氏が連覇を果たした。ラジコン型でも、高校生大会を席卷した四日市中央工がその勢いのままに、「風刃」で優勝を手中に収めた。

高校生大会での勢いのままに、四日市中央工の「風刃」がラジコン型を制す

10kg級の激しい戦いが繰り広げられた翌日(2003年12月21日)同じ両国国技館(東京都墨田区)で3kg級の全国大会が行われた。全国で3,000台以上の参加があり、各地区から選抜された128台がそこに集った。

ラジコン型では、やはり高校生の操る相撲ロボットが強かった。生まれたときから周辺にアクションゲームのあった高校生は、学校に行けば練習相手にも事欠かない。そうした恵まれた環境で育まれた高校生の快進撃を止められる一般参加者はおらず、大会の後半は、先ごろ行われた高校生大会さながらの光景となった。

ただ、高校生同士ではその実力はそれほど開きがない。ロボットの性能も、操縦テクニックも拮抗しているのが現状であり、それを裏付けるかのように、高校生大会の覇者である「雷冥」も、同じ三重県立四日市中央工業高等学校の「熱風」との戦いで姿を消した。その「熱風」も、次の試合で香川県立三豊工業高等学校の「TRUENO」に敗れ去った。

群雄割拠するラジコン型では、高校生大会を席卷した四日市中央工も安泰ではない。いくつもの相撲ロボットが参戦していたが、あちらこちらで苦戦を強いられた。結局、ベスト4には「風刃」しか残ることができなかった。ちなみに、この「風刃」は、高校生大会の準優

勝ロボットである。

代わってこの全国大会で台頭したのが、香川県立三豊工業高等学校である。ベスト4に「RPS-13」と「雷鳥R」の二つが入り、それぞれ準決勝と決勝で「風刃」と対戦した。いずれも「風刃」の勝利に終わったが、三豊工の強さはこの全国大会であらためて証明された。

この激戦の様子は、全日本ロボット相撲大会のホームページ(<http://www.fsi.co.jp/sumo/>)で公開されている。「第15回 全国大会トーナメント表」(<http://www.fsi.co.jp/sumo/a15/a150102.html>)で試合番号をクリックすれば、その試合の録画映像を見られるのだ。



高校生の強いラジコン型は、高校生大会上位常連の香川県立三豊工業高等学校(左)と三重県立四日市中央工業高等学校(右)の間で、決勝が行われた。



優勝した三重県立四日市中央工業高等学校の「風刃」は、高校生大会で準優勝したロボットである。その実力のほどは、全国大会でも証明された。



高校生大会では惜しくも準優勝だったが、全国大会でその雪辱を晴らした格好となった、三重県立四日市中央工業高等学校の松本翔太くん。